

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第26号

発行：平成25年3月 OSS・EPRグループ(指定管理者)

イベント報告

●ふれあいの森収穫祭 (平成24年12月22日)

朝から降っていた雨も開始時には上がり、市民の方56名がNPO法人いっちんクラブ指導の下、餅つきや野鳥のお話、ドングリの播種を体験しました。その他、芋煮汁などの振舞いも行われ、参加者からは「貴重な体験が出来た」「楽しかった」など嬉しい声を頂きました。



▲ ドングリの播種



▲ お餅つき

●講演会「今の風景・昔の風景」 (平成25年3月17日)

堺市の南部丘陵地域の人の暮らしと植生に焦点を当てた講演会を開催しました。森村健一氏(堺市立すえむら資料館)と木村進氏(大阪府立泉北高等学校)をお招きして、古代から現代の暮らしの変化と、それに伴う植生の移り変わりについてご講演いただきました。

参加者からは「地域の自然について初めてお話を聞くことが出来た」「歩く時、少し視線を変えて歩きたい」などの声を頂き、身近な植生を見直すきっかけとすることができました。



▲ 講演会の様子

●第6回里山保全ボランティア養成講座

(平成24年6月～11月)

今年度も身近な里山林の保全活動に関心を持つ方を対象にした講座を開催しました。この講座では、NPO法人いっちんクラブの会員や大阪府立大学の増田教授を講師に招き、里山での保全活動に役立つ実践的なプログラムを実施しています。



▲ 樹林管理体験



▲ 農活動体験

受講者は毎月一回、森の手入れや管理手法を学ぶ樹林管理体験や、その作業で発生した間伐材を活用したクラフト体験、集めた落ち葉で堆肥を作り肥料として活用する農活動体験、里山にいる生きものを調べる調査体験など、人と里山との関わりや、資源の循環と有効活用をキーワードに、この森ならではの里山保全管理活動について学びました。



▲ 生きもの調査体験



▲ 意見交換会

小学校の利用の様子

春と夏の遠足シーズンを中心に、豊かな自然とのふれあいや自然環境学習を目的として多くの小学校が、常駐するレンジャーの実施する環境学習プログラムに参加されています。

その中で、特に人気があるプログラムは、クイズラリーや自然の工作です。クイズラリーでは訪れた季節の森の自然を全身で感じながら、グループ毎に問題を解いていきます。また、工作はただ単に物を作るのではなく、題材となる森に住む生き物の暮らしや生き物同士の繋がりなどを学べるようにしています。この他にも、昆虫や土壌の観察など小学校の授業に沿ったプログラムを実施しています。ご要望に応じてオーダーメイドで実施することや、小学校以外の団体の方もご利用できますので、お気軽にご相談下さい。



▲ バッタの観察と解説



▲ 野鳥と食べものとの関係を学ぶ

▲ クイズラリー

ふれあいの森の春夏秋冬

堺市南区の丘陵地帯にある堺自然ふれあいの森は、堺市で数少ない自然が残された場所で、一年を通して様々な生きものを観察することが出来ます。じっくり観察してみると、それぞれの特徴や生きもの同士の繋がりがみえてきますよ。

春

森のあちこちでコバノミツバツツシが花を咲かせ、濃いピンク色の花びらが、森を華やかに彩ってくれます。また、6月上旬には、コナラの丘や里みちなどでササユリが見頃を迎え、近くを通ると甘い香りが漂います。

夏

様々な生きものが活発に活動する季節です。はらっぱや広場では、チョウやトンボ、バッタやカマキリなどを観察することができます。 ※観察した後はその場で逃がしてください。

冬

冬は赤や黄、茶色の落ち葉が園路を鮮やかに彩ります。まるでフカフカの絨毯の上を歩いているようです。木々の葉が落ちた森の中は、シジュウカラやヤマガラ、コゲラなどの小鳥を観察するのに適しています。

秋

里みちや尾根みちを中心に、コナラやシリブカガシなどのドングリや柿の実などの木の実を観察することが出来ます。また、はらっぱでは虫の鳴き声が響き渡り、トンボの姿も観察することが出来ます。

平成24年度 森の整備計画報告

平成24年11月16日に、NPO法人いっちゃんクラブ、大阪府立大学、堺市指定管理者の4者で、森の植生や整備状況の確認を行い、今後の森の整備計画を協議しました。活用ゾーン全体の整備区の設定など大きな方向性は昨年までに決定されていますが、整備の進捗状況に合わせてよりよい森作りができるよう、一部の整備区の設定方針を変更しました。



1 ネザサ育成区をチガヤ草原に変更

昔の田畑の跡であるネザサ育成区は、現在、一面をネザサに覆われています。このネザサを刈り取り、チガヤを中心とした草原を目指します。面積が広い上に、ネザサを根絶するには何度も繰り返し刈り取る必要があります。大変な作業になると思われそうですが、作業をすればただでさえ変化を実感できます。整備にご協力いただける方は、NPO法人いっちゃんクラブに入会してボランティア活動にご参加下さい。

2 作業道の整備

ネザサ育成区や園内南側の整備を進めるため、ネザサや木の枝を細かくするチップパーが通行できる道を整備します。これまで階段があり難しかった場所から、伐採した樹木や刈り取ったササの搬出やチップ化が可能となり、整備が進めやすくなります。 ※作業道は急斜面地に近いため、一般の方は通行できません。

3 尾根みちに広場を新設

ヤマガラ平の東南にある平地林とホオノキ整備区の北側に開けた尾根筋を整備し、広場として利用できるようにします。また、クロバイ広場は、シンボルとして生えていたクロバイが枯死してしまいましたが、周辺に実生が育ち始めていることから、クロバイ育成区として園路を除いて立ち入りを制限します。

平成24年度 森の整備の状況

平成23年の森の整備計画で実施を決定し、平成24年度に実施した整備成果の一部をご紹介します。

湿地管理区(スゲ沼)では、排水路の整備や湿地に侵入したタデ類やセイタカアワダチソウなどを除草し、スゲの優先する湿地景観を復元することが出来ました。また、アカマツ再生区では、アカマツ以外の樹木の除伐や落ち葉掻きが進み、アカマツの実生が多数発生したほか、コモウセンゴケ(堺市レッドリストAランク)が初確認されました。

人が関わることで育まれてきた里山の自然を保全しているため、今後も計画的に整備を進めていきます。



アカマツ再生区での落ち葉掻き作業 ▶



◀ 湿地管理区での除草作業

現在の南部丘陵にはコナラが優占している森林が多いが、過去の植生の変化を私たちが行った植生調査の結果や、様々な文献をもとに5つの時代に分けて推定してみたい。

- ① 人類がこの地域に出現する以前の約50万年前の大阪層群の地層が、光明池の底などにあり、現在より寒い地域に分布するミツガシワやチョウセンゴヨウ等の果実が発見される。この時期は氷河期にあたり、それより古い地層からはメタセコイアやスギ等が見つかり、このようなやや温暖な間氷期と氷河期が交互に数回繰り返されたことがわかる。
- ② ヒトが泉北丘陵に住みついた石器時代には、ブナを含む夏緑樹林に覆われていた。その次の縄文時代は温暖で、カシ・シイ類などの照葉樹林となる。この時期の堺の海岸線は浅香山～堺東～石津を結ぶあたりで、この近くで貝塚も発見されている。弥生時代は現在と似た気候となり、人類が稲作を始めて定住し、周辺の自然の改変を始める。
- ③ 古墳時代の初期には、泉北丘陵は広く照葉樹林で覆われていた。その後、須恵器の生産の中心地となり、燃料として周辺の樹木を伐採した結果、萌芽力の強いコナラなどの落葉樹林が増加した。また、伐採を続けた窯跡周辺は土壌が悪化して、古墳時代末期には大部分がアカマツ林に移行したことが、窯跡に残る燃料の材木の炭片から推定されている。
- ④ 奈良時代にはほぼ全域がアカマツ林になり、江戸時代には薪炭や下草を肥料として活用するため、森林は徹底的に利用され、当時の絵図などを見ると、柴山が広がり一部ははげ山化したことがわかる。この頃の状況は、明暦2年に堺奉行の石河利政が出した山掟「村むらの松山において、むやみに下枝を打ち払ってはならぬ……」によく表れている。
- ⑤ 明治時代に作成された地形図では、泉北丘陵はほぼ全域がアカマツ林であることがわかる。その状況が一変するのは、1960年代の燃料革命であり、里山林が薪炭林として使われず、放置されるようになる。さらに、1970年代以降松枯れが急速に拡大し、アカマツ林が激減した。その後、大木化したコナラ林や、シリブカガシなどの照葉樹林が復活してきている。また、様々な開発や耕作放棄田・竹林の増加で、植物種の多様性が失われつつあるのが、堺南部丘陵の植生の現状と言えよう。

里山から生活の糧を得る必要がなくなった私たちは、今後はどの時期の植生を回復させるべきだろうか。植物種の多様性を維持するためには、様々なタイプの植生がモザイク状に混ざった状態で存在することが望ましいだろう。過去の植生の変化に対する人の関わりを見つめ直すことで、未来の南部丘陵の植生のあり方を考えていきたい。

交通案内



● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側②番のりば(南海バス)

鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km

※日曜・祝日は、堺公園墓地行き 直行便有り

「自然ふれあいの森前」下車 すぐ

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km

公共サイン(案内板)を目印に お越しく下さい。

●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地

TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811

ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>

発行：堺自然ふれあいの森 OSS・EPRグループ(指定管理者)

※OSS・EPRグループは、大阪ガスコミュニティライフ株式会社・株式会社生態計画研究所の連合体です。



堺自然ふれあいの森